

3/26

現金使わず買い物便利に

キャッシュレス決済の推進協定締結



市長と握手を組み交わす杉本会長（中央）、塩原代表（右）

外国人旅行者などへのサービス向上や市内事業者の業務効率化を図るため、阿蘇市、阿蘇市商工会（杉本素一会長）、㈱リクルートライフスタイル（塩原一慶代表）の3者でキャッシュレス決済を推進する連携協定を締結しました。

現在、クレジットカードや電子マネーなど市内でキャッシュレス決済を利用できる店舗は、全店舗の2割程度に止まっています。本協定により、国の補助事業を活用しながら、キャッシュレス決済に必要な機器が希望店舗に導入される予定です。

3/22

市の財務状況をチェック

九州財務局が財務状況調査の結果を報告



九州財務局から財務状況の説明を受ける佐藤市長
※結果の詳細は市のホームページに掲載しています

九州財務局の山本義英理財部長が市役所を訪れ、佐藤市長に阿蘇市の財務状況について調査した結果を報告しました。

九州財務局は、本市の借金である地方債を返済できるか確認するため、昨年9月からことし1月にかけて聞き取り調査を行ってきました。調査の結果、平成25年度から平成29年度までの債務償還能力、資金繰り状況などについて「留意すべき状況はない」とされました。

今後引き続き債務償還能力を確保し、効率的で効果的な財政運営に努めます。

3/19

阿蘇から世界の舞台へ

森本幸司さんがトレラン世界大会出場

内牧出身で阿蘇中央高校に勤務する森本幸司さんが、6月8日にポルトガルで開催されるトレイルランニング世界大会への出場が決定し、佐藤市長にあいさつに訪れました。

森本さんは、109キロの草原を走破する第1回阿蘇ラウンドトレイルの優勝者で、これまでも数々の国内外のレースで優秀な成績を残しています。1月20日に徳島県で開催されたレースでは見事優勝し、今回出場する世界大会への切符を手にしました。大会には、森本さんを含め6人の日本人が出場します。



大会への意気込みを市長に伝えた森本さん（右）

カルデラ約120kmを走る西日本最長のトレイルランニング大会

第3回 阿蘇ラウンドトレイル

Aso Round Trail

■主催 Aso Round Trail 実行委員会

■開催場所 阿蘇市・高森町・南阿蘇村
西原村にまたがる地域

5/11 SAT・12 SUN



阿蘇トレイル 検索

※トレイルとは英語で自然道のことを言います。



3/29

災害復旧支援に感謝

宮崎市職の藤原さんが復旧支援の任期終了



復旧支援の任期が満了した宮崎市職員の藤原さん（中央）

熊本地震からの復旧支援のため経済部農政課の業務に従事した藤原康幸さんが3月31日に任期を満了しました。

藤原さんは、不足している土木技術者として平成30年4月に宮崎市から派遣され、被災した農地等の復旧工事業務に尽力しました。藤原さんからは「工事は終わりに近づいてきたが、災害は終わっていない。これからはソフト事業に力を入れてほしい」と激励をいただきました。

藤原さんは、4月から益城町で引き続き災害復旧支援の仕事に従事されます。

3/28

災害公営住宅へ入居開始

災害公営住宅となる新小里団地4号棟が完成



入居者を代表して鍵を受け取った塚本さん

阿蘇市で初めての災害公営住宅となる新小里団地4号棟が完成し、入居開始式に入居者や関係者ら約60人が出席しました。

熊本地震で被災し、住戸が滅失した人を入居対象とした災害公営住宅は、本年度中に小里団地、古神団地、大道団地と今回完成した新小里団地を含め計4棟を建設し71戸の入居を目指しています。

式では、新小里住宅の入居者を代表しての石の自宅が被災した塚本秀春さんが佐藤市長から部屋の鍵を受け取り、入居に安堵しました。

4/1

3年ぶり仙酔峡線開通

熊本地震で被災した市道仙酔峡線復旧完了



修復された市道仙酔峡線

熊本地震で被災し通行できなかった市道仙酔峡線の復旧工事が完了し、約3年ぶりに仙酔峡までの通行が可能となりました。

今回復旧したのは、道路やガードレールが被災していた国立阿蘇青少年交流の家から仙酔峡駐車場まで3.5キロの区間で、仙酔峡に上る唯一の道路です。

仙酔峡は、約5万株のミヤマキリシマが自生しており、高岳・中岳に通じる登山口でもあることから、これからの行楽シーズンに向けて観光客の呼び水となることが期待されます。

4/1

福岡⇄阿蘇の路線開通

高速バス「ASO エクスプレス」が運行開始



観光関係者やゆるキャラ達に迎えられるバス

福岡と阿蘇を1日3便ずつで繋ぐ高速バス「ASOエクスプレス」の運行が開始され、JR阿蘇駅前で佐藤市長をはじめ観光関係者ら約50人が歓迎しました。

西鉄バス（福岡市）と九州産交バス（熊本市）が共同で運行するこのバスは、天神（福岡市）やJR博多駅などを経由して、内牧のはな阿蘇美までを約3時間半で結びます。福岡市へ行く市民の利便性向上や、福岡空港国際線も経由するため、訪日外国人観光客の導線としても大いに期待されます。

4/2

竹田までの通行便利に

中九州横断道路 阿蘇～竹田の事業化決定



事業化決定セレモニーに出席した国や自治体関係者

中九州横断道路の阿蘇～竹田間約22.5kmの事業化が決定し、竹田市総合文化ホールで事業化を祝うセレモニーが開かれました。

中九州横断道路は、大分市から熊本市までの約120kmにわたる地域高規格道路で、大分県側の犬飼～竹田までの25.3kmが開通し、阿蘇市でも波野と坂梨を結ぶ滝室坂道路6.3kmの工事に着手しています。

今回事業化が決定した区間は竹田～滝室坂道路までで、国道57号の南側に道路が整備される予定です。

4/1

阿蘇市を守る有志たち

阿蘇市消防団辞令交付式



佐藤市長から高日龍治新団長に辞令が手渡された

阿蘇市消防団辞令交付式が市役所で行われ、新たに団長に就任した高日龍治さん(大道)をはじめとする昇格者と新入団員に辞令が交付されました。

本年度は、新たに52人が入団。新入団員を代表して橋本凌さん(黒流町)が辞令を受け取りました。

阿蘇市消防団は、地域の安心安全を守るため総勢739人体制で日々尽力しています。

入団を希望する人は年度途中の入団も可能です。詳しくは総務課防災交通係 ☎22・3111 にお問い合わせください。

4/6

未来のプロ選手を育成

ロアッソ熊本ジュニアユース阿蘇が発足



ジュニアユースに選抜された18人のメンバー

株式会社アスリートクラブ熊本(永田求代表取締役社長)が運営するロアッソ熊本のジュニアユースが阿蘇地域に発足し、農村公園あびかでチーム結団式が開かれました。

ロアッソ熊本はサッカー活動の場が減少している阿蘇地域で、地元愛にあふれる未来のプロサッカー選手を育成するため、阿蘇郡市の中学生を集めたチームを結成。阿蘇市からは6人が選抜されました。選手たちは、多くの人の期待に応えられるよう一つ一つのプレーを大切にすることを宣言しました。

4/4

3年ぶり阿蘇西小復旧

被災した阿蘇西小の災害復旧工事完了



完成した阿蘇西小学校の校舎

熊本地震で被災した阿蘇西小学校の校舎とプールの復旧工事が完了し、地域の人たちやPTA等の関係者らが出席して落成式が行われました。

今回復旧した校舎は、被災前の3階建てから2階建てに変更され、より災害に強い構造になっています。

阿蘇西小学校は、熊本地震の翌月から旧尾ヶ石東部小学校を代替校舎として約3年間使用してきましたが、4月8日の始業式から新たな学び舎での学校生活がスタートしました。



4/8

ようこそ内牧小学校へ

旧山田小の児童を内牧1区の住民が歓迎



旧山田小の児童を歓迎した内牧1区の皆さん

市内の各小・中学校で始業式が行われた4月8日、旧山田小学校の児童が統合した内牧小学校に初めて登校しました。ことし3月をもって閉校した旧山田小学校の児童のうち27人がスクールバスを利用して登校します。バスの停留所となっている内牧1区公民館では、朝早くから地元区長をはじめ多くの地域住民が歓迎式を開催。安心してバス通学ができるようにと手作りの横断幕を準備して児童たちを温かく迎え入れました。

4/7

大型ビジョンで情報発信

阿蘇ライオンズクラブがLEDビジョンを寄贈



LEDビジョンを寄贈し、感謝状を受け取った村本氏（右）

阿蘇を訪れる人への情報発信を目的に阿蘇ライオンズクラブ（韋尾幸隆会長）が大型のLEDビジョンを市に寄贈し、道の駅阿蘇に設置されました。阿蘇ライオンズクラブ創設50周年事業の一環で寄贈された屋外大型LEDビジョンでは、阿蘇の観光スポットや特産品、イベントなど地域の様々な情報が発信されます。贈呈・除幕式では関係者ら20人が参加。佐藤市長から阿蘇ライオンズクラブ50周年記念大会の村本征秀大会会長に感謝状が贈呈されました。

4/16

鯉のぼりに願い込め

尾ヶ石保育園の園児が鯉のぼりを掲げ復興祈念



掲げる鯉のぼりに熊本地震復興の祈りを込めた

熊本YMCA尾ヶ石保育園の園児たちが、熊本地震からの復興を願って鯉のぼりを掲げました。今回掲げた鯉のぼりは、東日本大震災で被災した宮城県石巻市の玩具店から送られたもので、上り木は、園児たちが「かわはぎ間伐」を行った木を使い、尾ヶ石地区の人たちが協力して製作しました。園児たちは、地震からの復興と、大空を泳ぐ鯉のように災害を乗り越えてたくましく育つよう願いを込めて、皆で力を合わせて鯉のぼりを掲げました。

4/16

熊本地震の被災者追悼

熊本地震から丸3年



哀悼の言葉を述べる佐藤市長

熊本地震の本震から丸3年となる4月16日に市役所で追悼行事が開かれ、防災無線のサイレンに合わせて市内全域で被災者への黙とうが行われました。黙とう後には、佐藤市長が「市民の皆と心をついに早期の完全復興に邁進し、今後とも全身全霊・全市一体となり、防災・減災に取り組み、安心・安全な市をつくっていく」とあいさつし、ご遺族や被災された人たちの平安を祈念しました。今年度は、残る3団地の災害公営住宅の整備や下鶴橋などの復旧が見込まれています。